【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【公開番号】特開2007-167842(P2007-167842A)
【公開日】平成19年7月5日(2007.7.5)
【年通号数】公開・登録公報2007-025
【出願番号】特願2006-321846(P2006-321846)
【国際特許分類】
Ｂ０１Ｊ　21/04　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　37/00　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　37/08　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　37/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０１Ｊ　21/04
Ｂ０１Ｊ　37/00　　Ｆ
Ｂ０１Ｊ　37/08
Ｂ０１Ｊ　37/04　　１０２

【手続補正書】
【提出日】平成20年3月4日(2008.3.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
担体材料を形成させる方法において、
液状分散剤中で第１水和アルミナ及び第１水和アルミナと異なる第２水和アルミナの分散液を形成させ、
この分散液を噴霧乾燥して粒子を形成させ、そして
これらの噴霧乾燥粒子を加熱して担体材料を形成させる
ことを特徴とする方法。
【請求項２】
第１水和アルミナが表面積、少なくとも１種の不純物の濃度及び形成方法の少なくとも一つにおいて、第２水和アルミナと異なることを更に特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
分散液の形成が
液状分散剤中に第１水和アルミナを分散して第１分散液を形成させ、しかも液状分散剤中の第１水和アルミナを摩砕してその粒子サイズを低減するか、又は摩砕しないでそのままで、
第２水和アルミナを第１分散液に添加する
ことを含むことを更に特徴とする、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
第１水和アルミナを
ａ）酸又は塩基中にアルミナ三水和物を溶解し、そして
ｂ）工程ａ）の生成物にベーマイト種晶でもって種晶添加する
ことを含む方法により形成させる、及び

第２水和アルミナを、アルミニウム金属をアルコキシドに転換しそしてこのアルコキシドを加水分解して擬ベーマイトを形成させることを含む方法により形成させる
の少なくとも一方を更に特徴とする、請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項５】
第１水和アルミナが
少なくとも１００m^2／ｇの表面積、及び
０．４から２ｃｃ／ｇの細孔容積
から選択された少なくとも一つの性質を有し、そして第２水和アルミナが
少なくとも１００m^2／ｇの表面積、
少なくとも０．５ｃｃ／ｇの細孔容積、及び
第１水和アルミナより高い純度（存在するすべての酸化物に対する割合としてのアルミナによって表して）
から選択された少なくとも一つの性質を有することを更に特徴とする、請求項１～４のいずれか一項に記載の方法。
【請求項６】
加熱工程後、担体材料を酸、塩基及びイオン交換樹脂の少なくとも一つで処理して少なくとも１種の不純物のレベルを低減することを更に特徴とする、請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。